特　集

The New Stage

# 健康長寿と子育て支援は新しいステージへ

4月発行の広報誌で「施政方針」についてご紹介いたしましたが、その中で、鹿児島大学病院副病院長の大石充教授と連携した「健康長寿・子育て支援」に関する課題解決の取組を行うことをご紹介しています。まさに今、垂水市をフィールドとした新しい取組が行われようとしています。今月の特集は、その取組の方向性や概要についてご紹介してまいります。

## 課題解決のため、これまでとは異なるアプローチを求めて

平成28年夏、尾脇市長は、鹿児島大学医学部の大石充教授のもとを訪れました。目的は、「健康長寿（医療・高齢者対策）」や「子育て支援」を更に促進するために、専門的見地からのご意見をいただくためです。本市医療の課題や少子高齢化の現状などについて説明を行い、引き続き意見交換を重ねていくこととなりました。その後、意見交換を重ねる中で、大石充教授より、「垂水市が抱える少子高齢化の課題は、日本全国共通の課題」、「大学側からはデータ分析に基づいた最適なアプローチを提案でき、介護費用等の適正化が期待できる。」などのご意見をいただき、行政と医療が一体となって「健康長寿・子育て支援の新しいモデルケースの構築」を進めていくこととなりました。

鹿児島県が今年2月に発表した「県人口移動調査（平成28年報）」によると、垂水市は、県内全市町村の中で高齢化率（全人口で65歳以上が占める割合）が県内で3番目に高く、年少人口割合（全人口で15歳未満が占める割合）が県内で2番目に低いという状況であり、これは、県内でも少子高齢化が進展している自治体であると言えます。少子高齢化は全国的な課題であり、近い将来には、現在の垂水市の人口構成に近づく自治体が増加する傾向にあることが予想されます。垂水市をフィールドに「健康長寿・子育て支援の新しいモデルケースの構築」をスタートし、発信することが今後重要となります。





意見交換

## 「元気な垂水づくり」実現のため、尾脇市長から大石教授へアプローチ

❶ 市民の皆さんの満足度をもっと向上させたい。
（生涯を通じた健康長寿・子育て支援の充実）
❷ 医療・介護費用の適正化を図りたい。
❸ 医療・介護の人材を充実したい。
❹ 美味しい食材、魅力的な観光地などの地域資源を活用したい。

尾脇市長

意見交換

大石 充　教授

鹿児島大学心臓血管・高血圧内科学教授、鹿児島大学病院副病院長兼病院長補佐

❶ 垂水市が抱える少子高齢化の課題は、日本全国共通の課題。
❷ 大学側からはデータ分析に基づいた最適なアプローチを提案でき、介護費用等の適正化が期待できる。
❸ 垂水市で実施することが、医療・介護職からの注目を集め、人材充実にも寄与するのでは？
❹ 垂水市の地元特産品を健康食として活用できる可能性は十分にあると思います。

共有した現状と課題

①日本が抱える少子高齢化への新たな取組が必要である。
②魅力ある資源（食・人・観光など）を積極的に活用していくべきである。

共同で目指す方向性

## 健康長寿・子育て支援の新しいモデルケースの構築

行政や医療を始めとする様々な専門家（多職種）が力を合わせて、みんなで楽しく健康寿命を延ばすことができる元気なまちを作り上げるためのモデルケースの構築を行ってまいります。